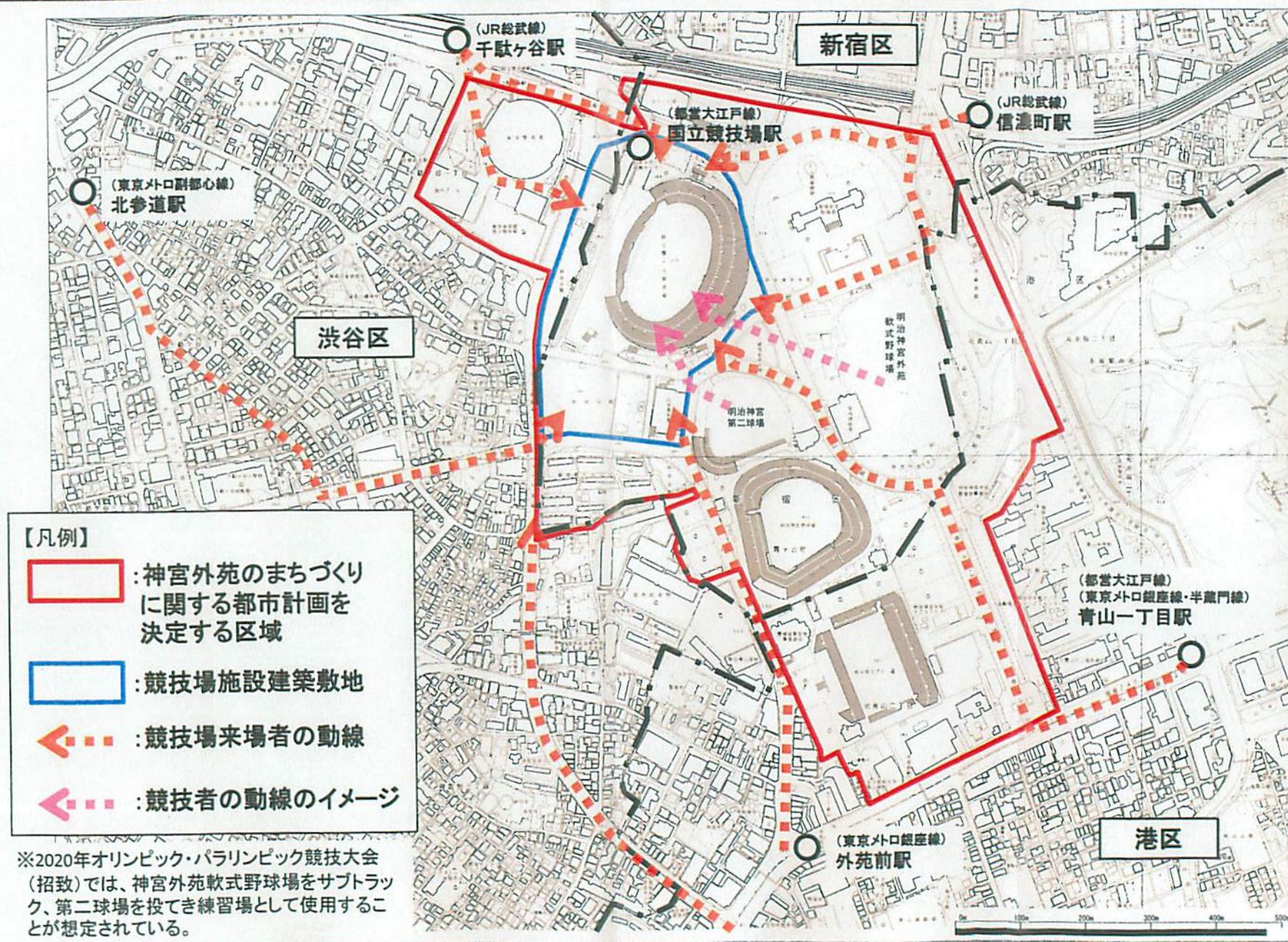


■都市計画の見直しと競技場施設建築敷地

参考資料



国立競技場の改築に関する想定スケジュール

今後のプロセスについて

デザインコンクールの表彰式について

最優秀賞受賞者と契約面での合意が得られた後に開催する

- ・最優秀賞受賞者の表彰
- ・最優秀賞受賞者による作品のプレゼンテーション
- ・その他

※ 最優秀賞受賞者等のスケジュール調整の上、表彰式の日時を確定予定

(今後の予定)

- ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致立候補ファイルに最優秀作品のバースを反映
- ・1月末までに基本設計に向けた与条件を整理
- ・平成 25 年度から、設計等のプロセスに着手
- ・11月末都市計画見直し手続きの企画提案の提出

※ 最優秀賞受賞者は、設計・施工段階でのデザイン監修を行う

※ 審査委員会は、デザイン監修について必要な助言を行うことができる

今後は、最優秀案に選ばれた Zaha Hadid Architects の優れたデザインを実現するため、改めて基本設計、実施設計の設計者をプロポーザルで選定して設計にあたるチームがつくられる。

各方面と十分な議論を重ねて意見を取り入れながら、日本として世界に誇れる最高の競技場が創造されると同時に、この競技場に込められるであろうエネルギーが新しい時代の表現、未来に向けたメッセージとなることを大いに期待する。

新国立競技場基本構想国際デザイン競技 審査委員会

Zaha Hadid Architects の提案は、スポーツの躍動感を思わせるような、流線型の斬新なデザインである。極めてシンボリックな形態だが、背後には構造と内部の空間表現の見事な一致があり、都市空間とのつながりにおいても、シンプルで力強いアイディアが示されている。

可動屋根も実現可能なアイディアで、文化利用時には祝祭性に富んだ空間演出が可能だ。とりわけ大胆な建築構造がそのまま表れたダイナミックなアーニー空間の高揚感、臨場感、一体感は際立ったものがあった。この強靭な論理に裏付けられた圧倒的な造形性が最大のアピールポイントだった。

また、橋梁ともいいくべき象徴的なアーチ状主架構の実現は、現代日本の建設技術の粋を尽くすべき挑戦となるものである。

自然採光・自然換気・太陽光発電・地中熱利用・中水利用・雨水利用のクーリングシステム等の提案においても、日本の優れた環境技術が十分に活かされるだろう。

アプローチを含めた周辺環境との関係については、現況に即したかたちでの修正が今後必要であるが、強いインパクトをもって世界に日本の先進性を発信し、優れた建築・環境技術をアピールできるデザインであることを高く評価し、最優秀案とした。

Cox Architecture の作品は、透明で繊細な3次曲面のドームと、内部に浮かび上がる木壁のスタンドが特徴的で、その品格を備えた静謐なデザインが好評を得た。

セクター計画されたスタンドは機能性・実現性が高く、臨場感にあふれたものとなつておらず、屋上庭園を含めた魅力的なホスピタリティについても高く評価された。

透明度の高い普遍的形式のドームは、洗練された印象を与える一方で、スポーツの聖地である国立競技場としての祝祭的な高揚感、強いメッセージ性に欠けるのではないかという印象が残り、優秀案となった。

S A N A A (Sejima and Nishizawa and Associates) + Nikken Sekkei の作品は、環境に呼応したなだらかな起伏のある屋根と観客席が、これまでにない開かれた競技場のイメージを提示していることが高い評価を得た。

また周辺環境や自然との親和性に富んでおり、環境の時代の新しい建築のあり方を示していると考えられた。

斬新な空間イメージが高い評価を得た一方で、曲面をなす屋根のメンテナンスを考慮した仕上材やその支持方法、可動屋根や可動遮音壁の実現性、起伏ある屋根とスタンドの隙間が観客の集中力を妨げることなど、美しいパースのイメージを保ちながら現実的課題をクリアすることに懸念があり、入選案となった。

上位三提案の評価については、審査員の間でも大いに意見が分かれ、最後まで激しい議論が交わされた。結果として、実現性を含めた総合力にまさる Zaha Hadid Architects 案が選ばれたが、国家プロジェクトのデザインの方向性を決めるに相応しい、実りある国際デザイン競技であった。

審査講評

1964年の東京五輪という、日本国家の節目のときにつくられた国立競技場。戦後日本の、いわば復興の証であったその建物を建て替え、新たなスポーツの聖地をつくるべく、国際デザイン・コンクールが開催された。

新国立競技場の施設に要求される機能条件は、旧競技場に比して膨大かつ複雑である。課題は大きく次の三つに集約される。

第一は規模条件。現代の大規模なスポーツ国際大会の開催には80,000人を収容できる会場が必要だ。その巨大スケールのボリュームを、絵画館や神宮球場、東京体育館などが隣接する狭い敷地の中に無理なく収めなければならない。

第二は重層的なプログラム。陸上競技、ラグビー、サッカーといった異なるスポーツに対応した臨場感ある観客席の在り方が求められる一方、コンサートなど文化的な活用を可能するために可動式の屋根や、芝生のメンテナンスのための技術が必須である。

第三は建設スケジュール。新競技場は、すでに2019年に開催が決定しているラグビー・ワールドカップ、2020年の招致を目指すオリンピック・パラリンピックのメインスタジアムとなることが決まっている。このタイトなスケジュールの中で設計から建設までを完遂しうる建築でなければならない。

そして、これらの課題に応えた上で、現代のような停滞気味の社会状況の中で、国家プロジェクトとしてつくられる新競技場には、単純な施設拡充以上の、社会に対するメッセージ、新しい時代のシンボルとなるべき創造力が期待される。国際デザイン競技募集要項では、これを「地球人にとっての希望の象徴となるべきデザイン」として表現した。

短い公募期間にもかかわらず、世界各国から意欲的かつ個性的な46作品が集まった。

1次審査では、作品の匿名性を確保した上で日本人審査員8人から推薦があった作品について、デザイン性、機能性、実現性といった様々な観点から検討を行い、まず11作品に絞り込んだ。

2次審査では、グローバルな知見を求めてノーマン・フォスター、リチャード・ロジャースという世界的建築家2名を審査員に加えた10人の審査員で投票を行い、その上位作品について、未来を示すデザイン性、技術的なチャレンジ、スポーツイベントの際の臨場感、施設建設の実現性等の観点から詳細に渡り議論を行った。

その結果、最優秀案にZaha Hadid Architects、優秀案にCox Architecture、入選案にSANAA (Sejima and Nishizawa and Associates) + Nikken Sekkeiを選定した。

有限会社SANA A事務所 + 株式会社 日建設計
妹島 和世 (日本)



新国立競技場基本構想国際デザイン競技

有限会社SANA A事務所 + 株式会社 日建設計
妹島 和世 (日本)



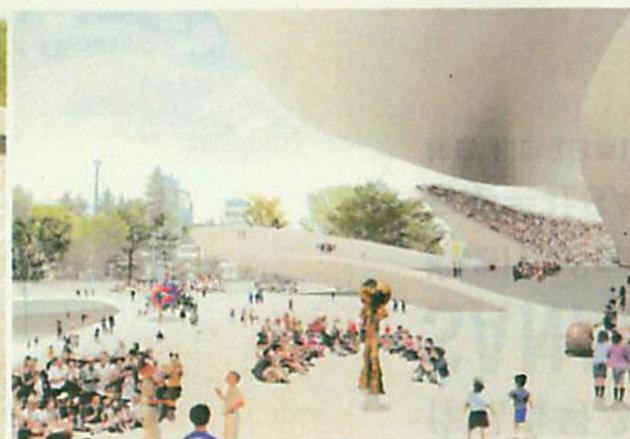
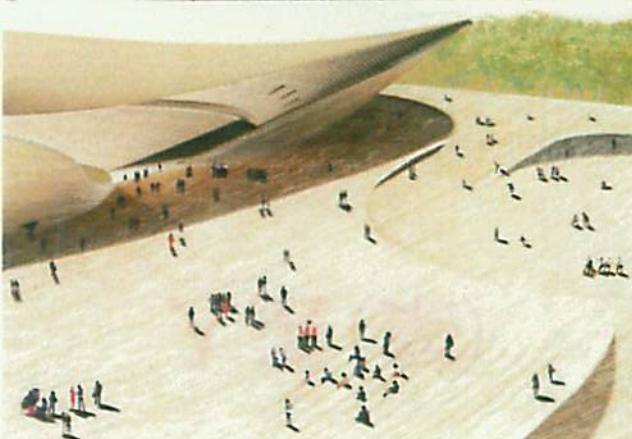
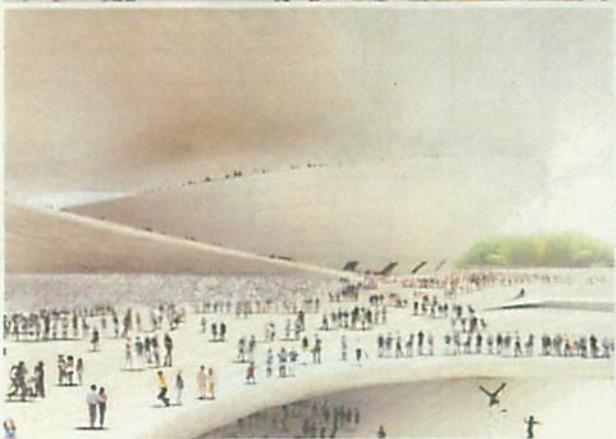
新国立競技場基本構想国際デザイン競技

有限会社SANAA事務所 + 株式会社 日建設計
妹島 和世 (日本)



新国立競技場基本構想国際デザイン競技

有限会社SANAA事務所 + 株式会社 日建設計
妹島 和世 (日本)



新国立競技場基本構想国際デザイン競技

入選(案)

作品番号 34

SANAA + Nikken Sekkei Ltd

Kazuyo Sejima (JPN)

有限会社SANAA事務所 + 株式会社 日建設計
妹島 和世 (日本)



コックス・アーキテクチャー ピーティーワイ エルティディ
アラステル・レイ・リチャードソン (オーストラリア)



新国立競技場基本構想国際デザイン競技

コックス・アーキテクチャー ピーティーワイ エルティディ
アラステル・レイ・リチャードソン (オーストラリア)



新国立競技場基本構想国際デザイン競技

コックス・アーキテクチャー ピーティーワイ エルティディ
アラステル・レイ・リチャードソン (オーストラリア)



新国立競技場基本構想国際デザイン競技

コックス・アーキテクチャー ピーティーウイ エルティディ
アラステル・レイ・リチャードソン (オーストラリア)



優秀賞(案)

作品番号 2

Cox Architecture pty Ltd

Alastair Ray Richardson (AUS)

コックス・アーキテクチャー ピーティーワイ エルティディ
アラステル・レイ・リチャードソン (オーストラリア)



ザハ・ハディド アーキテクト
ザハ・ハディド (イギリス)



新国立競技場基本構想国際デザイン競技

ザハ・ハディド アーキテクト
ザハ・ハディド (イギリス)



新国立競技場基本構想国際デザイン競技

ザハ・ハディド アーキテクト
ザハ・ハディド (イギリス)



新国立競技場基本構想国際デザイン競技

ザハ・ハディド アーキテクト

ザハ・ハディド (イギリス)



新国立競技場基本構想国際デザイン競技

最優秀賞(案)

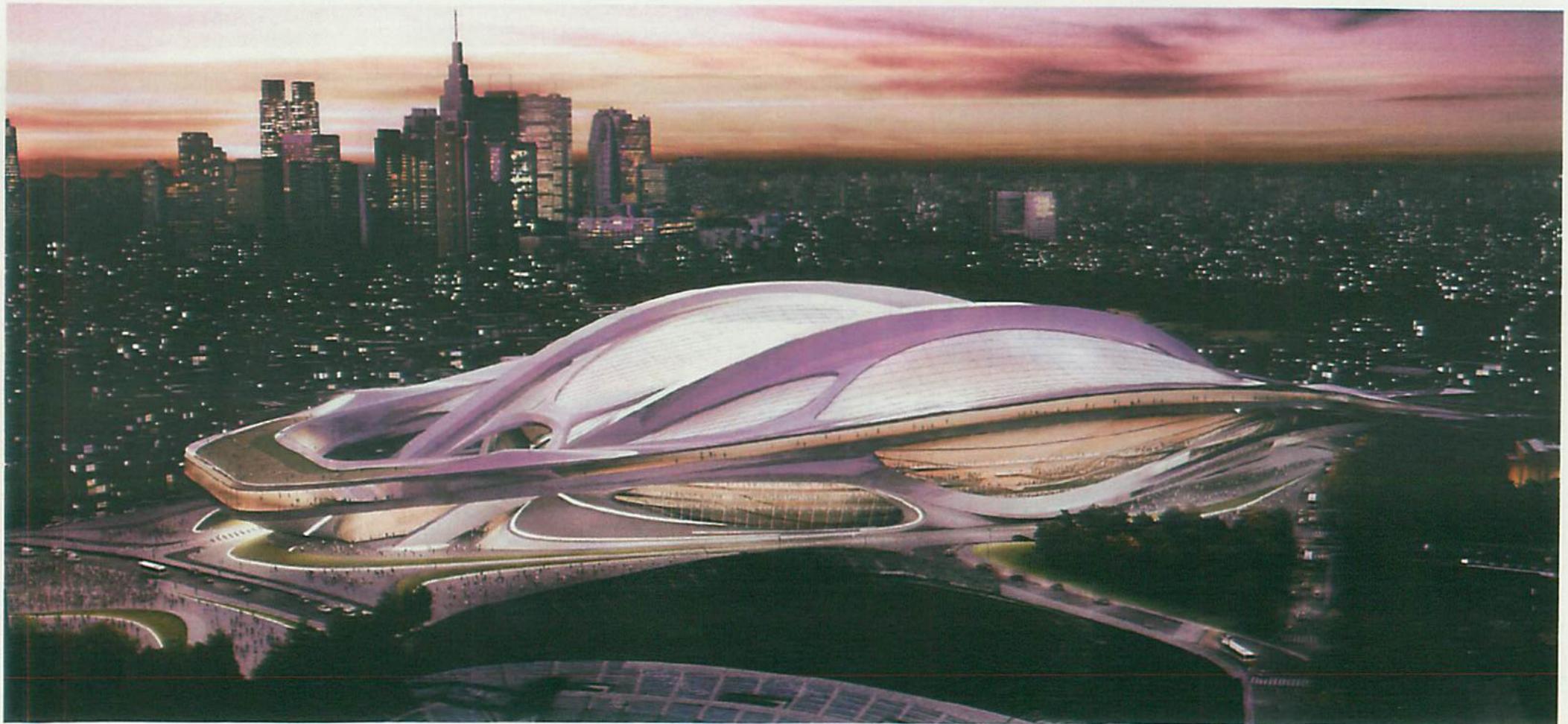
作品番号 17

Zaha Hadid Architects

Zaha Hadid (GBR)

ザハ・ハディド アーキテクト

ザハ・ハディド (イギリス)



NEW NATIONAL STADIUM JAPAN INTERNATIONAL DESIGN COMPETITION

新国立競技場基本構想国際デザイン競技 二次審査結果

JAPAN SPORT
COUNCIL

日本スポーツ振興センター

**JAPAN SPORT
COUNCIL**

独立行政法人日本スポーツ振興センター

国立競技場将来構想有識者会議（第3回）次第

■日 時： 平成24年11月15日（木） 16:00～17:00
■場 所： グランドアーク半蔵門 4階 富士の間

＜審議事項＞

- 1 新国立競技場基本構想国際デザイン競技の審査結果について
- 2 今後のプロセスについて
- 3 その他

＜資料＞

資料1 新国立競技場基本構想国際デザイン競技 二次審査結果

資料2 新国立競技場基本構想国際デザイン競技 審査講評

資料3-1 今後のプロセスについて

資料3-2 国立競技場の改築に関する想定スケジュール

参考資料 都市計画の見直しと競技場施設建築敷地

は東京都とも連携をしながら今月中に内容を確定して、印刷が11月下旬までにということをお伺いしておりますので、1月7日の提出に間に合うように具体的な段取りを進めさせていただければと思っております。

以上、ご説明申し上げました件につきまして何かご説明等ございましたらよろしくお願ひいたします。

【佐藤委員長】 ありがとうございます。いかがでしょうか。

よろしゅうございますか。なければ、審議の3に参ります。その他でございますが、今後の本会議の日程等につきまして事務局よりご説明がございます。河野理事長、よろしくお願いします。

【河野理事長】 それでは、先ほどの審議事項2でも触れましたけれども、本会議でデザイン・コンクールの最優秀賞が決定いたしましたので、これをベースに今後、基本設計プロポーザル案の検討として、基本設計を発注するための与条件の整理を行い、この整理ができた段階でまた有識者会議の皆様にはご審議をいただければと思っております。

現時点では、繰り返すようで恐縮ですけれども、予算編成も終わっておりませんので、その時期等について何とも申し上げられませんが、政府予算案に基本設計が盛り込まれた場合には、本会議の開催を来年の1月末か、この辺は何ともいつごろというのが今の状況で我々のほうも申し上げられないので大変心苦しいのですけれども、また改めてご連絡させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

【佐藤委員長】 ありがとうございます。

以上で本日の審議事項はすべて終了いたしました。ご協力賜わりまして大変ありがとうございました。

私からは以上ですが、河野理事長で、最後に何かございますか。

【河野理事長】 ほんとうに長い期間、また、短いときにいろいろごらんいただく等、日程的にもご無理を言いましたので、ようやくここまで来たという感じがありますが、いよいよこれからが大変力仕事が要るところかなと思っていますし、何よりも、先ほど来お話を出ておりますけれども、これから使うところの目線でどういうふうにできるのかというのが勝負どころにもなってまいると思います。より具体的なことでご審議をまたいただくなろうかと思いますけれども、どうぞよろしく引き続きお願ひいたします。

どうもありがとうございました。

【佐藤委員長】 では、閉会いたします。ありがとうございました。

ります。

また、先ほど、基本設計ということがございましたけれども、1月の末までに基本設計に向けた与条件を整理させていただきまして、そして先に進めていきたいと思っております。その際には、また、今、委員長のほうからもありましたけれども、政府予算に基本設計費がないとなかなか具体になりませんので、今このような状況でございますけれども、何とぞどうぞよろしくお願ひいたします。

いずれにしましても1月の末までには基本設計を発注するための与条件を整理していきたいと思っておりますので、利活用あるいは文化の面から、いよいよいろいろなことについて具体的な与条件を詰める作業になりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

そういう意味で、各ワーキンググループ等々をこれから開催させていただきたいと思いますけれども、これにつきましては、また日程についてご相談させていただければと思います。

それから、その後の基本設計の与条件に加えまして、運営面とか事業計画等の利活用につきましても、基本計画をもとに今後決定していきたいと思いますので、これについてもまたご相談申し上げることができればと思います。

それから、資料の3-2が今、申し上げた具体的な想定のスケジュールということになりますのでごらんいただければと思います。資料の中段にございますけれども、国立競技場の改築に当たりまして、明治神宮外苑地区全体を環境の向上を図るための既存の都市計画の見直しを行うこととなります。都市計画の見直しに当たりましては、今月中に関係行政機関へ提出することになる企画提案書に最優秀賞案を反映させるということになろうかと思います。

参考資料をちょっとごらんいただきたいと思います。A3のものでございますが、都市計画の見直しを図る範囲につきましては、スクリーンにもございますし、お手元にもございますけれども、

それから、青山通り、国道246号線に面するところですね、そこにつきましても追加をしております。これにつきましてもご確認いただければと思います。この案をもとに今後、住民説明会等々を経まして、資料を整えて関係の行政機関へ提出するということになります。

それから、オリンピック招致関係につきましては、先ほども触れましたけれども、立候補ファイルに掲載するということになりますので、これにつきましてはまた招致、あるいは

賞に今、お選びいただきましたザハ・ハディド・アーキテクトとデザイン監修ですか、あるいは具体的な条件について協議をして、実際に契約を締結した後で、これを正式な基本構想デザインとして採用するということになっておりますので、よろしくお願ひいたします。

また、その契約という観点からは、この順序はいわば契約交渉優先権順というようなところもありますので、万が一の場合には、だんだん下に行くというようなことはあろうかと思いますが、いずれにしても、まずこれをきちんとやっていくことだと思います。

そして、この最優秀賞につきましては、この後で記者会見をさせていただきまして発表させていただきますので、ご承知おき願いたいと思います。

また、最優秀受賞者を対象としたしまして後日、表彰式を行うこととしておりましたけれども、これまで11月下旬もしくは12月ということを申し上げておりましたけれども、外国に在住の方ですので、少し時間がかかるかと思います。おそらく年明けの1月、あるいはそれ以降になるかもしれません、ちょっとお時間を頂戴することでご了解いただければと思います。その際はまたご案内申し上げますので、ぜひご参考いただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

【佐藤委員長】 ありがとうございます。

何よりも来年度予算で所用の経費がつきませんと先へ進めないところがございますし、そういう日時、日程等、多少まだ今のところわかりにくいところがございますので、いろいろな要素を勘案しながら前進をさせていただきたいと存じます。

続きまして審議事項の2、今後のプロセスということでございます。こちらにつきましては、国立競技場の改築に関する想定のスケジュールということになりますが、お手元の資料3に沿って、河野理事長からご説明をお願いいたします。

【河野理事長】 それでは、資料の3-1をごらんいただきたいと思います。今もご説明いたしましたけれども、表彰式につきましては具体的な契約面での条件が整ったときに開催ということで、おそらく年明けになろうかと思っております。その際には最優秀賞の受賞者の表彰とともに、プレゼンテーションもしていただけるように今、考えております。スケジュールの調整の上、またご報告申し上げたいと思います。

また、今後の予定ですが、東京2020オリンピック・パラリンピック招致立候補ファイルに最優秀作品のベースを反映するということになっておりますので、これにつきましてもいろいろなやりとりが必要かと思いますけれども、急いでやっていきたいと思ってお

今日は代理のご出席でございますが、██████████をお願いいたします。

【◎委員代理】██████████

██████████審査委員長の安藤先生に一任をしたいということで意思決定をいただいております。よろしくお願ひいたします。

【佐藤委員長】では、██████████

【◎委員代理】同様でございまして、██████████から一任をあずかってまいりました。

感想としましては、ほんとうにオリジナリティーが高く、流れるようなフォルムで、記録を後押ししてくれるような気がいたします。

以上でございます。

【佐藤委員長】ありがとうございました。

それでは、██████████

【◎委員代理】素人ですが、この躍動感と同時に、この最優秀作、女性的というか、優美で、優しそうな感じも受けますが、私どもパラリンピックの側からいたしますと、ロンドンで高まったパラリンピックの存在をさらに強める、非常にアクセシブルというか、みんなを受け入れやすいような施設に、これから中身を検討していただければありがたいなと思っております。

【佐藤委員長】ありがとうございます。

██████████

【◎委員代理】ご一任ということの伝言を預かっておりますので、よろしくどうぞ。

【佐藤委員長】ありがとうございました。

一通りご意見を出していただきましたが、ほかにこの際、ご意見はございませんでしょうか。

よろしければ、審議事項の1につきまして、本会議として審査委員会の審査結果どおりに最優秀賞はザハ・ハディド・アーキテクト、優秀賞はコックス・アーキテクチャー ピーティーワイ エルティディ、入選は有限会社S A N A A事務所+株式会社日建設計ということで本会議として決定をすることによろしゅうございますでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【佐藤委員長】ありがとうございました。それでは、そのように決定をさせていただきます。

【河野理事長】どうもありがとうございました。今後、事務局におきまして、最優秀

【佐藤委員長】 ありがとうございます。

続きまして、██████████ お願いたします。

【◎委員】 まず初めに、この大変すばらしいご選考をいただきましたことに感謝申し上げます。個人的でございますけれども、46、私も実際に拝見させていただきまして、やはりこれが一番印象に残っております、まさにそれと一致して、すばらしいなというふうに感じた次第でございます。

先ほど、スポーツの躍動感、それから新たな技術の挑戦ということがございました。この新しい施設ということでございますので、ぜひとも我々のアンチ・ドーピングのような新しい分野、これらも含めた新しい施設をつくっていっていただければと思います。

ありがとうございました。

【佐藤委員長】 ありがとうございます。██████よろしいですか。

【◎委員】 全体としては、皆さんのおっしゃるとおりです。ただ、この全体像46点見たときもそうですが、にマッチするのかなという。これはその次の入選作、S A N A A 十日建、これもそうで、これ見ていると、神宮の森に庶民的な感覚で、これ、合うのかなっていう感じをちょっと持ちました。

それから、これは██████も同じだろうと思うんだが、この1番の方、最優秀もそうだし、その次の方も、この絵、両方見ていると、せっかく臨場感あふれるサッカーやラグビーをぐっと近づけて見るという、この可動式なんだろうけど、それにしては随分遊びが多いなと。フィールドの周り、ものすごく遊びが多いでしょう。これだったらあんまり、臨場感がないんじゃないかなと。

【◎委員】 その横、図面から、広い面、長い面は完全に可動の仕組みがおりるように表現されているんです。

【◎委員】 じゃあ、これはもっと近くなるっていうことですね。

【◎委員】 そういうことですね。ゴール裏の可動部分が十分表記されていないので、基本設計の段階でこここの部分に可動席を入れるというような形で臨場感を出すということになっています。

【◎委員】 色々あるようですが、ほんとうにたくさんの中からよくお選びになって、私も全部見ましたけど、どうやって選ぶんだろうと思って、頭を痛めて見ておりましたが、そのことについてご労苦に感謝をします。

【佐藤委員長】 貴重なご意見は今後の参考にさせていただきたいと存じます。

では、引き続き、委員の皆様方から一言ずつご意見を頂戴したいと存じております。

それでは、[REDACTED] お願いをいたします。

【◎委員】 これ、見た目にはすばらしいので、こういうものがほんとうにできたらすごいなと、こういうふうに第一印象で感じましたが、先ほどのご説明で、これ、日本の建築技術とか土木技術じゃなきゃできない、とのことでございますので、それだったらぜひ、この絵に近いものをつくり上げていただきたいと。さっきのお話にも出ましたように、50年、100年、次の世代、次の次の世代の人たちが存分に利活用できるようになるっていうのは、これはすばらしいなと思います。

芝や何かのことは、私は専門ではございませんけれども、[REDACTED]
芝は何回も何回も研究しまして、今、相当いいものができましたので、やはり芝生も研究して、いろいろトライしてみるとやりようがあるんだなという、そういうことを感じていますから、いろいろなところにある知恵っていうんでどうか、経験を集めれば、たくさんいいものができるくるんじゃないかと、こんなふうに思っております。ぜひ頑張っていただきたいと思います。

【佐藤委員長】 ありがとうございました。

では、続きまして、[REDACTED] お願いいたします。

【◎委員】 まず、この46の作品を精査されてここまでまとめてこられたJSC、そして安藤先生はじめ関係者の皆様のご苦労に心から敬意を表したいと思います。

私も46の作品を見せていただいた中で、印象に残っていたものは幾つかあるのですが、やはりこの最優秀賞というのは、その中でもほんとうに躍動感があって、斬新なデザイン、また、インパクトが非常に強かったことを覚えておりました。

2020年、東京オリンピック招致がもし決まって、このスタジアムがメインスタジアムとして世界に発信できたら、ほんとうにこのオリンピックのシンボルとしてすばらしいものになる。

それから、安藤先生のお話を伺って、これをつくり上げる技術がまさに日本の土木あるいは建築の技術でなければできないということをお伺いして、また、まさに最優秀賞を現実的にできたらすばらしいなということを感じました。

また、優秀賞、そして入選もすばらしいデザインだと思いますが、この最優秀賞はこの中でも飛び抜けているなという印象をいただきました。

どうもありがとうございます。

ただいまの審査の講評にもございましたけれども、審査の過程で多くのご議論もございましたようですし、また、実現に向けて幾つかの課題を克服する必要もあるかと存じます。ただ、我が国のテクノロジーを駆使したチャレンジになるということで、国家プロジェクトとしてふさわしい選定になったようには思ってございます。

それでは、ただいまの安藤座長のお話がございましたけれども、委員の皆様からご意見をいただきたいと存じますが、まず、審査委員会に参加をしていただきました、スポーツ利活用の小倉座長から一言お願ひをいたします。

【小倉座長】 小倉でございます。今、安藤審査委員長がご説明されたとおりでして、委員会として非常に真剣な議論が行われ、その中で最終的には日本を元気づけるデザインはこれしかないとい結論になったわけです。

スポーツのほうの側としては、いろいろな競技団体のご意見も伺って、この中で生かせるという結論になっております。ただ、これから基本設計並びに実施設計の段階で、芝の管理であるとか、問題についてはこれからよく詰めていくということになっております。

【佐藤委員長】 ありがとうございました。

続きまして、文化利活用の座長、都倉委員からお願ひいたします。

【都倉座長】 小倉座長とあまり変わった意見ではないのですけれども、私個人としてこの建物に票を入れたのは、やはり何といってもこの圧倒的な存在感と、そして神宮の森にそびえ立ったときのこの美しさというものを感じ、この国立競技場は今の国立競技場と同じように50年間、100年間、使っていかなければいけない建物でございます。ある意味では日本のシンボルみたいな建物になるのではなかろうかということでございます。

ただ、小倉座長もおっしゃっていたように、これからが機能性という意味では、この建物、巨大な建物をスポーツと文化と両面でどういうふうに使っていくかと。使う上でどういう機能性を持たせるかということは、細部にこれから詰めていかなければいけない、技術的にも課題がいろいろあるのではなかろうかと思いますが、安藤委員長の専門的なご意見でそれは解決可能であると。特に芝の育成、そしてコンサートとか催し物をするときに、その芝をいかに養生し、また大切に、それも経済的にできるかと、こういう問題がこれから検討材料としては残っておりますが、全体的にこのデザインに関して、この美しさに関しては審査委員会一致で選ばせていただいたというふうに思っております。

ありがとうございました。

【佐藤委員長】 どうもありがとうございました。

[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED] 最優秀案のほうが大変魅力的であるという意味で最優秀案を選びました。

同時に、最優秀案も優秀案も、いわゆる開閉式でありますので、これから解決していかなければいけない課題がたくさんあると思います。

入選案は、最優秀案と同時に珍しく女性であります、これはS A N A Aという、妹島和世さんという日本の女性と日建設計の案でありますけれども、ここでも非常に、いわゆる流れのある、そして都市になじむ、ある面ではこの案は一つ、都市空間の中のなじみとしてはうまくいくのではないかと思いましたけれども、[REDACTED]

[REDACTED] では最優秀案のほうがよかったのではないかと。この案もなかなか新しい時代の新しい形の建築なのではないかというふうに思いました。

[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED] 最優秀案のほうに点数が行きました。

[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED] 最優秀案には追いつかなかったというように思います。

全体的にこのような形で最優秀案、優秀案、そして入選案を決めさせていただきましたけれども、これからこれを基本設計し、そして実施設計し、工事が始まるまでは難問が幾つか出てくるだろうというふうに思いますけれども、このあたりを委員会の人たち、そして基本設計をする人たち、実施設計をする人たちと徹底的に討論をしながら進めていきたいというふうに考えております。

ありがとうございました。

【佐藤委員長】 安藤委員、ありがとうございました。

ますけれども、現在の日本というのは少し沈滞をしております。この中でこの建物をつくることによって、1964年のオリンピックのころのような、いわゆる躍動感あふれる日本の国を表現できるのではないかということを考えまして、この案にいたしました。祝祭性といいますか、お祭りの中で、世界中の人たちがこのスタジアムでぜひ競技をしてみたいと思う、世界中の人たちがぜひ行ってみたいと思う空間としては一番いいのではないかというふうに思いました。

また、この建築はかなりスケールが大きいのと同時に、技術的な課題もたくさんあります。そのような課題を解決できるのは日本の国の土木建築技術力でしかなかつくり得ないようなところがたくさんあります。そういう意味では日本の建築技術、土木技術、そして日本の技術力というものを世界にアピールするという意味でも非常に、これをつくり上げていくということになれば、日本の多くの国民の人たちもこれに心から参加できるのではないかというようなことも、これを選定した理由であります。

同時に、例えば太陽光の問題であるとか、自然光の問題であるとか、地中のエネルギーの問題とかいうようなことを含めて、それを利用するという意味では、今までになかった建築のエネルギーの問題も解決できるのではないかというようなことも含めて最優秀案にいたしました。この点につきましては、かなり討議はありましたけれども全員一致で、このすばらしい案を押していこうではないかということで決定をいたしました。

これは、遠くから見たところで、これは内部空間でありますけれども、これならば芝もうまくいくだろうと。開閉の技術もうまくいくだろうと。しかし、課題はたくさんあります。これだけ大きなスケールのものを世界中はつくったことがありませんので、この技術はこれから設計者と、同時に基本設計者、実施設計者を選びますけれども、これは入札によって選ばれるわけですが、その人たちとのしっかりしたコミュニケーションの中でつくり上げていかなければならぬというふうに思っています。

次に、優秀案には、コックスというオーストラリアの建築グループが選ばれたのですけれども、遠くから見るとかなり巨大なものであります。透明感のある、具体性に富んだこの建築は、
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]
[REDACTED]

ついてご協議を申し上げたいと存じます。

先ほど申し上げましたとおり、世界各国から46点の応募があり、審査委員会におきまして10月16日に一次審査、11月7日に二次審査が行われたわけでございます。本日はこの審査委員会において選定されました最優秀候補作品3点につきまして、最優秀賞、優秀賞、入選にかかるご審議をいただき、3賞の決定をいたしたいと存じております。お手元にはこれらの作品を資料1として、また、審査の講評資料を2として配付をさせていただいてございます。

それでは、資料をごらんいただきながら、審査委員会の委員長を務めていただきました安藤委員から、審査の結果の報告と講評をお願い申し上げたいと存じます。よろしくお願ひいたします。

【安藤委員】 今、説明にありましたように、46点の中から何段階かに分けまして、ちょうど3点を残しながら、最優秀賞、優秀賞、入選案というのを決めさせていただきました。

46点の中でかなり難しいけれども新しい提案のあるものもありましたけれども、この3点におきましては、現実的に一番大きな問題は2019年を目指してスケジュールがいけるかどうか。そして技術的な問題とコスト的な問題と機能がうまく重なり合うことができるかどうかということの検討をいたしました。

まず、最優秀案から見ていただきたいと思っております。この最優秀案はザハ・ハディドといいうイギリスに在住するイラクの建築家です。女性の建築家です。この建築をまず見ていただきますと、直感的におわかりになるだろうというふうに思いますが、スポーツに必要な、大変躍動感のある形をしているのではないかと思われると思いますが、まず、この流線型の形をした躍動感のある建築は、都市の中でスポーツを行うという意味では大変イメージがいいのではないかと思いました。

同時に、大変大きな建造物なのですけれども、構造をどのようにつくり上げていくかということと、内部でスポーツをするということにおける内部空間との関係も非常にうまくいっているのではないかというふうに思いました。

また、この建築は全体の都市との関係から言いますと、都市のシンボルとして日本の国が21世紀、ちょうど1964年のオリンピックのときに、今の代々木の体育館を見て多くの人たちが驚きますが、世界中の人たちが日本の国はすごいと。あの国は1945年の敗戦の後、これだけのものを立ち上げてきたんだということについて感動したわけあり

スポーツ振興センターより理事の藤原が出席させていただいております。

それでは、初めに久保局長より一言ご挨拶いただければと思います。よろしくお願ひいたします。

●久保局長あいさつ

【河野理事長】 どうもありがとうございます。

大変恐縮ですけれども、本会議は非公開とさせていただいておりますので、報道関係者の皆様におかれましては、恐縮ですがご退場願えればと思います。よろしくお願ひいたします。

(報道関係者 退室)

【河野理事長】 それでは、本日の議事につきましては、お手元の議事次第に沿って進めさせていただきたいと思います。それでは、佐藤委員長、よろしくお願ひいたします。

【佐藤委員長】 本日はご多忙の中、お集まりをいただきましてまことにありがとうございます。第3回目の会議になります。本日の審議に当たり、一言御礼を申し上げたいと存じます。

審議事項にございますとおり、7月20日から募集を開始いたしました新国立競技場基本構想国際デザイン競技につきましては、日本を初め世界各国から46点の応募を頂戴をいたしました。これまでの間、安藤委員長をはじめ小倉委員、都倉委員、そのほか審査委員の皆様方には審査委員会においてお忙しい中、ご審査をいただいたことに対しまして厚く御礼を申し上げるところでございます。

早速審議に入らせていただきますが、次第にございますように、本日の審議事項は大きく分けて2つでございます。第1は、新国立競技場基本構想国際デザイン競技の審査の結果を確定することでございます。審議の2は、今後のプロセスについてお諮りをすることですございます。

審議に入ります前に、事務局から配付資料の説明をいたします。

●事務局（武木本部長）による資料の確認

【佐藤委員長】 ありがとうございました。

それでは、早速、審議事項の1、新国立競技場基本構想国際デザイン競技の審査結果に

国立競技場将来構想有識者会議（第3回）議事録

日 時：平成24年11月15日（木）16：00～17：00

場 所：グランドアーク半蔵門 4F 富士の間

出 席：佐藤委員長、安藤委員（建築グループ座長）、小倉委員（スポーツグループ座長）、
都倉委員（文化グループ座長）、鈴木（秀）委員、竹田委員、張委員、森委員、
秋山氏（石原委員代理）、尾懸氏（河野委員代理）、伍藤氏（鳥原委員代理）、
奥田氏（鈴木（寛）委員代理）
文部科学省 久保スポーツ・青少年局長
国土交通省 佐藤都市局官房審議官
J S C 河野理事長、藤原理事

審議事項1 新国立競技場基本構想国際デザイン競技の審査結果について

審議事項2 今後のプロセスについて

審議事項3 その他

《以下議事録》

【河野理事長】 それでは、定刻ですので、会議を始めさせていただきたいと思います。
審議に先立ちまして、本日ご出席いただいております委員の先生方をご紹介させていただきます。佐藤禎一委員長でございます。

●河野理事長から出席委員の紹介

佐藤禎一委員長、安藤忠雄委員、小倉純二委員、森喜朗委員、都倉俊一委員、張富士夫委員、竹田恆和委員、鈴木秀典委員、石原慎太郎委員の代理の秋山副知事、河野洋平委員の代理の尾懸日本陸上競技連盟専務理事、鳥原委員の代理の伍藤日本障害者スポーツ協会副会長、鈴木寛委員の代理の奥田氏（委員の紹介は終了）

●河野理事長から列席者の紹介

文部科学省久保公人スポーツ青少年局長、国土交通省佐藤憲雄都市局官房審議官、日本